

31H 中泉 心希 32H 山岸 泰大 33H 垣田 和奏
 34H 出口 尚弥 35H 瀬戸 あかり 36H 境谷 佳純 36H 高田 もえ

■課題

全体的に能登地域の産業自体衰退傾向 県内外問わず知名度の低迷

■解決策

知名度、品質向上を目指し、能登ならではの農産品を作り、県内外から産業の活性化を図る
 未来に受け継いでくれる人材の育成及び確保を推進する

■現状(課題の背景)

<産業の衰退>

・産業全体が衰退+第一次産業就業者の**著しい減少**(図1)

<知名度>

・ふるさと納税の返礼品ランキング上位に**能登地域は載っていない**

・各観光スポットの**知名度が低い**

(首都圏住民の48.3%が能登地域の観光スポットを知らない(図2))

・県内外問わずブランド品が**認知されていない**

・県内外問わず能登の良いところをアピールできていない

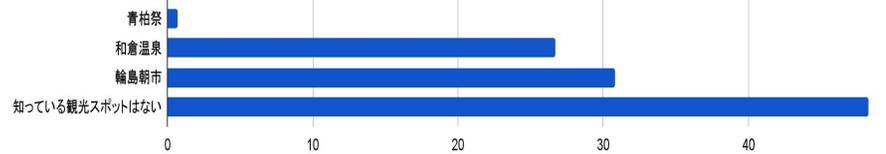


図2 能登地域に関して、知っている観光スポットは？(複数回答可)
 (対象者:能登地域に訪れたことのない、首都圏住民 n=412)

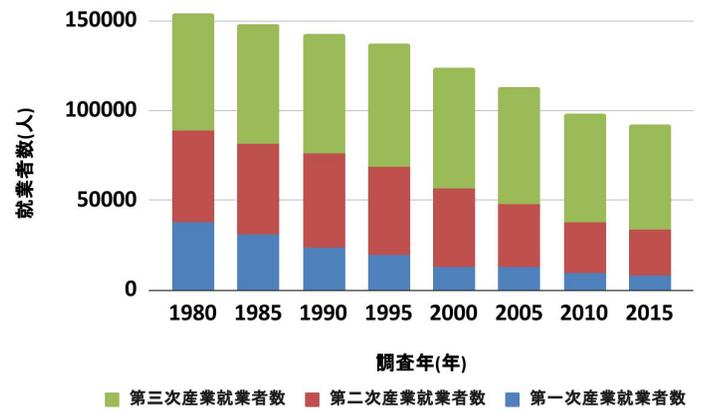


図1 能登地域の産業就業者数の推移

■具体的内容-1

「ここにしかないもの」を確立し、ふるさと納税で県内外から取り寄せしてもらおう！

* 地理的表示 (Geographical Indication) とは

「地域ならではの」の要因との結びつきを有する商品について、生産地や特性とともに、農林水産大臣が登録するもの。

■効果-1

生産者

- ・品質向上、ブランド化へのステップ
- ・模倣品の排除
- ・海外展開も夢じゃない



https://da2d2y78v2iva.cloudfront.net/2069/0000507048.jpg?_=1561462908

消費者

- ・安全が確保された商品を買うことができ安心につながる
- ・全国で知れ渡る



https://www.city.nomi.ishikawa.jp/www/contents/100100000238/simple/190402094330_0.jpeg

《活用例》

伊予生糸(三重県)

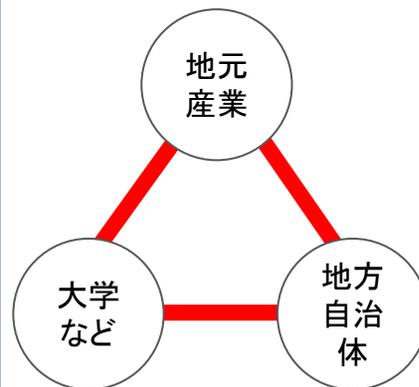


■具体的内容-2

地域コーディネーター(学校と地域をつなぐ架け橋の役割)の人材育成を行い、企業・学校・地域一体となって能登を盛り上げよう！

* 地域コーディネーターとは

学校のニーズや地域住民の思いを拾い集め、地域住民の参加を得ながら、活動へと結びつける役割。



地域担当教職員と地域コーディネーター等による定例会

福島県での活用例

■効果-2

現在積極的に能登のことを認知している世代だけでなく、新しい世代からのニーズを聞き入れ、産業に反映させることができる！

■参考文献

- 1) 地理的表示保護制度農林水産省 https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/index.html (23-2-26)
- 2) 地域学校協働活動推進員(コーディネーター)の方 文部科学省 <https://manabi-mirai.mext.go.jp/user/coordinator.html> (23-2-26)
- 3) 地域学校協働活動事例(モデル地区の取組から)福島県 <https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/334078.pdf> (23-4-17)
- 4) 「能登の観光振興に向けたアンケート調査」金沢大学 https://www.dbj.jp/upload/docs/hokuriku_1503_01.pdf (23-2-26)